

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874700434	
法人名	社会福祉法人 春来福祉会	
事業所名	いやしの館ゆむら1号館	
所在地	兵庫県美方郡新温泉町歌長字熊田600番地	
自己評価作成日	平成30年9月21日	評価結果市町村受理日 平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定日理理活動法人CSウォッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	平成30年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新温泉町の湯村温泉地区の唯一の認知症対応施設であり、地域の認知症の方々に対する認知症ケアの拠点としての活動を重視し、具体的には、居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携し、定期的(毎月1回)認知症予防及びコミュニティとしての認知症カフェ「のどか」を開催し地域の方々と交流を深めている。また当事業所入居者で要介護度が高くなり当事業所での生活困難の際、併設特養の長期入居者として利用等安心して生活できる支援体制を整備している。その他、自然豊かな地域の特性を活かし、外出支援に力を入れている。一方、利用者・家族等に安心・安全に生活して戴く為、職員には、認知症の専門的な研修を積極的に受講を進め、職員中心の「パーソン・センタード・ケア」を第一に考え利用者の思いを引き出せるよう関わっている。法人の社会福祉複数事業運営の強みを活かし、併設事業所間での情報共有、内外研修等で得た、日々変化する知識や情報を取り入れ業務に反映している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・湯村温泉地区山端に立地の平屋和風の認知症対応施設。法人の強みを活かし事業所間情報共有、併設2号館と合同運営推進会議推進、認知症ケア及び予防への拠点として認知症ケアに取組み、地域住民への展開を図っている。【工夫点】・玄関には書道作品等が掲げられ、共有スペースも落ち着いた雰囲気への飾りつけや読書コーナ等がある。日中を過ごすリビングは口腔体操など行える広さであり、静かな雰囲気の中で、利用者が落ち着いてすごされるようにしている。隣接特養共有フロアで行われる行事参加や同フロアへの緊急避難への通路等設備工夫もされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、毎朝朝礼時に唱和しているが、朝礼に出る職員のみとなっている。	2年前に見直しの法人理念と地域密着型サービスの意義をふまえた5項目の運営方針を定め、管理者と職員は法人理念と共に朝礼で唱和やこれら記載の携帯カード配布し、朝礼に出られない職員の共有への一助としている。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事の際には、地域の老人会、青年団、婦人会等に1年の予定を知らし、協力を依頼している。	2号館では昨年末町担当者との話の中で地域住民に対する認知症＆予防への要望が出、多目的室を活用の”認知症＆予防力フェ”を本年4月開設し、以降月1回予防教室の開催等地域の交流を推進している。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護や認知症についての講習会や認知症カフェを定期的に開催している。		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、事業報告をし、地域の方々からも意見や感想等を頂き参考にしている。	運営推進会議は2号館と合同で地域包括支援センター、住民代表、家族代表及び理事長、施設長、GH管理者の参加により活動報告、協議・意見交換を行い1例として地域に高齢者としてのたまり場設置要望を取り入れ多目的室の活用に繋げている。	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に会議を行い協力関係を築いている。	新温泉町では唯一の高齢者施設群を持つ法人傘下にあるGHであり、法人代表以下ケアサービスに関し連絡を密にとり協働関係を築いている。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行い、拘束を行わない様にしている。玄関の施錠は、準夜勤者の退社後夜23時～朝6時頃までしている。	年1回法人研修計画にもとづきGH全職員も”身体拘束禁止”参加し、日々の取組みの中で身体拘束をしないケアに取組んでいる。玄関は、日中は施錠なく、夜間時間を決め施錠としている。	
7 (6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会を持ち、虐待のないよう注意を払っている。	年2回法人研修計画にもとづきGH全職員も参加し、施設内で虐待の防止のに努めしており、最近は職員の交替などもあり、特にコミュニケーション時の言葉の使い方等に注意を払い防止に努めている。	

自己 者	第 三	項　目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会をもち必要な時に話し合いをしている。	現在成年後見人制度利用の入居者はいない。法人内当該人権研修に参加しているが、基本的には活用対象者は特養への移行活用の方法も有している。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について入居時に説明し、改訂の際にも文書等で知らしている。	契約時利用者・家族の対話では、長・短期入所における対応等の関心事に対し、当GHの法人特性でもある特養との関係性等について十分説明を行い理解・納得が得られるようにしている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、意見や要望等を表せる機会があるが、遠慮等があるかと思われる。	法人全体の家族会が年2回あり、参加者には草刈、窓拭きなどの奉仕活動に参加を願い、その時点や運営推進会議に参加頂き、意見等またケアプラン見直し時等や面会時等機会を設け対応している。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を反映させるよう努めている。	本年4月より半年に1回の人事考課時に職員面接の機会を設け、また日常でも隨時職員との意見交換を行っている。	職員からの認知書ケア全体に対する工夫・改善等の反映事例の積極的推進が期待されます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、職場環境条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を定期的に行ない、また外部研修にも参加できる機会を作っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会はなかなかない。			

自己 者	第 三	項　目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から発する言葉に耳を傾け、他職員にも引き継ぎ共通理解を図り、安心を得るよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面接から始まり、気がついたことは伝えながら要望を伺っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気持ちに添えるよう努め共感しながら対応している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら支援している。			
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内での支援となり、馴染みの人が来られた時以外は、出向いていくことは殆どない。	本人が培ってきた関係性を把握しこれまで本人が大切にしてきた人との関係が途切れないように支援している。今までの延長線上であるように知人や友人等に訪問してもらうなど地域社会や地域住民との関係が継続できるよう心がけている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係を把握を把握には努めているが支え合えるようになるには時には困難になる場合がある。			

自己 自己 者 者 第 三 三	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、その後の相談や支援に努めたい。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを伺うが、全てその人の思いに添えないこともある。歩きたくない人に歩くことを進めたりなど。	日々の関りの中で声を掛け、どのように暮らしたいのか把握に努めている。利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、行動や表情から汲み取り真意を推し量り、それとなく確認するようにしている。注意が必要な点は引継ノートを活用し共有化している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりに折を見ては尋ねたりして把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き、職員で話し合いをしている。家族からも意向を伺っている。	本人やご家族には日頃の関りの中で、思いや意見を聞き、ケアに反映させるようにしている。毎月のモニタリングで要望や変化が生じた場合、アセスメントを含め職員で意見交換して処遇会議等で見直しをしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を本人の言葉を添えて記録し、職員間で情報を共有している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ柔軟な支援を検討している。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握に努め安全で豊かな暮らしにつなげるよう努めている。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は指定であり、必要な場合は他の医療機関への受診も行っている。	家族等と受診時の通院介助の方法と情報伝達について説明し、かかりつけ医は指定で全利用者に納得同意を得ている。指定医は24時間連携でき夜間急変時は判断や指示が得られる。鳥取市の精神科医が月1回往診し適切な医療体制が整備されている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいない。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換や相談に努めている。	入院時には、本人への支援方法や介護・看護記録を提供している。状態変化時はかかりつけ医に相談し、その判断のもとに病院と連携を図っている。出来るだけ早期に退院できるよう施設の生活状況や対応の情報提供に努めている。日頃から病院関係者と関係づくりし看護師長とも長年の馴染みの関係にある。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してホームでの生活が困難になってきたと思われたら早い段階から今後の生活や隣接する特養への移動など話し合い説明している。	本人や家族の意向を踏まえ、医師と職員間が連携をとり、安心した最期が迎えられるよう意思確認しながら取り組んでいる。重度化した場合はホームとして対応し得る最大のケアを説明し、本人家族の意向を踏まえ早期に話し合いの機会を設けている。特養への移動など十分話し合い検討している。	重度化した場合や終末期支援のあり方、事業所の対応について「意思確認書」など作成にむけ検討願いたい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習や急変時の研修を年1回行っている。		
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について、具体的なことは決められていない。隣接の特養施設に早めに移動避難するなど。	年2回(昼・夜間)の消防協力による防災避難訓練を実施(秋はGH2施設で)近隣住民の参加までは至っていない。備蓄は法人依存で当該GH独自準備はない。	災害避難訓練には近隣住民に参加工夫等推進、また備蓄については単独立地より利用者及びMIN職員用の備蓄準備と管理が望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。その人の立場で考え、生活歴やその人が大事にしてき習慣を深く理解し対応し常に確認し合うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出したり、自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいが一日寝たいという人も強制にならない程度に起きてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回散髪し、その人らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に応じたお手伝いをしてもらっている。	特養栄養士のメニューをもとに食事準備の専属職員で対応。皮むきや片づけ等利用者と共に使う。食事が楽しみとなるよう、月1回「ごちそうの日」を設けている。トウモロコシやサツマイモ等畑で収穫した食材を使い大切な活動のひとつとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて職員見守りのもとで、歯磨きうがいをしている。		

自己 者第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、定期的にトイレへの声かけをして失禁のないような自立支援に努めている。	自尊心に配慮し、一人ひとりのサインを全職員が把握し、あからさまな誘導ではなく、さりげなく支援している。排泄リズムを把握し失敗した場合でも、手早く周囲に気づかれない等配慮しながら対応しパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様食べ物で調整したり、水分を進めたり、ナースに相談等して個々の予防への運動を進めている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、決められた日時で行っている。体調などにより変更することもある。	一人ひとりのタイミングに合わせ、週2回はゆっくりと楽しめるように調整している。曜日や時間帯を決めてしまわずにその方の状況に合わせ相談しながら個別に支援を行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息や睡眠の支援をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の理解に努めている。症状の変化にも留意している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握しそれぞれに合った役割、嗜好品、楽しみなど支援している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援したい。年に数回だが地域の人々に協力して頂き外食やドライブに出かけている。	一人ひとりの習慣や状態、希望、季節や地域のその時々の状況に応じて、外出を楽しめる支援に取組んでいる。普段は行けない場所へ月1回は職員提案でドライブを計画したり、年4回春秋に行う外食、ホーム周辺の散歩や花壇の水やりなど短時間でも戸外に出る機会を大切にしている。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している。現在は実際所持している人はいない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり手紙のやりとりができるよう支援している。		
52 (23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりに努めている。	平屋和風を基にした施設であり、2号館、特養の建物より一段上に位置した山際に位置している。廊下を左右にした居室の構成で廊下端には読書スペースを用意されているが現在は活用されていない。玄関すぐの居間空間は、採光の関係もあり全体的に少し暗い雰囲気である。	室内採光工夫等(窓外花壇の季節を感じる栽植も含め)明るい雰囲気で過ごせる工夫・改善が期待される。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂テーブルのどこかで自身の好きな場所で過ごせるようにしている。		
54 (24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう希望を伺い、TVの持込み、自身の作品等展示している。	居室は居心地良く過ごせるよう希望を伺い、使い馴れたTVや自信の作品等展示して居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、洗濯物干し、仕分け、食事の盛り付け、配膳等できることをして頂き、安全で自立した環境づくりに努めている。		